

一会員の独言・二人言(?)

菊地勝弘*

最近の「天気」は面白くないという意見を聞きます。それは、現学会員の多くは「天気」購読者のA会員であり、その唯一の機関紙の「天気」の内容が、きまりきった理事会報告や、国際会議の報告等があっても、内容は窮屈で、読物的雰囲気を少なくしてきているからではないでしょうか。それもこれも、一時期の学会設立100周年事業による減頁の措置がとられた結果だと思うのですがそれも各方面の努力によって正常に戻ったものと思われまます。ところが逆に、最近は何の余白も随所に見受けられ、「埋草」の記事、文章を載せるといった努力が欠けているように見られます。年2回の大会に参加できない会員の多い現状ですから、読物的要素、啓蒙にも力を入れるべきではないかと思えます。埋草の記事が間に合わない時は、天気に関係したスケッチ(例えば古い測候所の外観、山にかかる雲、雪の結晶、風神、雷神の画や写

真、等々)等も入れてみるのはいかがでしょうか。編集委員なり会員に積極的に働きかけて、記事をプールしておき、余白に応じて埋めるという具合に、天気俚諺に関するその地方の解説等も、比較的年齢層の高い気象庁職員なら沢山あると思うのですが。私は、「天気」にはこんな記事がどんどんあってもよいと思っています。他の機関のPR紙ですが「PRメテオ(日本気象協会だより)」の最終頁に連載されている「歌謡歳時記」には何時も感心しているのですが、このような記事は「天気」にはびったりと思うのですが、会員の皆様はいかがでしょうか。特に地方の気象台や測候所に永くお勤めの学会員の方、今まで温めていた天気に関係した記事、読物、スケッチ等、思いきって投稿してみたいはいかがでしょうか。臆怯な方は「天気」地区編集委員に御一報下さればお力添はできると思うのですが。

* Katsuhiko Kikuchi, 北海道大学理学部。

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
IAMAP/IAPSO 1985年 ハワイ合同研究集会	1985年8月5日～16日		ハワイ州ホノルル
第23回国際地震学・地球 内部物理学協会(IASPE I) 総会	昭和60年8月19日～30日	地震学会ほか	京王プラザホテル
第2回基礎エアロゾル講 座	昭和60年8月21日・22日	エアロゾル研究協議会	東京理科大学
第3回エアロゾル科学・ 技術研究討論会講演	昭和60年8月22日・23日	エアロゾル研究協議会	東京理科大学
日本気象学会秋季大会	昭和60年10月29日～31日	日本気象学会	大阪科学技術センター
第11回リモートセンシ ングシンポジウム	昭和60年10月30日・31日	計測自動制御学会	国立教育会館
極東域モンスーンに関 する国際研究集会	昭和60年11月5日～8日	組織委員会・日本気象学会	東京大学海洋研究所
第3回アジア流体力学会議	昭和61年9月1日～5日	アジア流体力学会議委員会	日本都市センター